

あとがき——執筆責任者のことば——

本巻の刊行により『日本銀行百年史』本文の編纂作業は終了した。第1巻を刊行してから3年有余、編纂作業を開始してからでは実に8年の歳月を閲した。思えば長きにわたる編纂作業であった。すでに「はしがき」(第1巻掲載)において、第1巻刊行に至るまでの経緯、編纂方針、執筆者の抱負など編纂作業の実情を具体的に記したが、本文全6巻を完成した今日、改めてこれまでの歩みを振り返ると、それは当初私たちが予想した以上に苦難の多い道程であった。

本書の編纂は日本銀行にとって創業以来初めての、金融政策運営の推移に関する本格的な修史事業であっただけに、私たちは高い理想を掲げ、情熱を燃やして、編纂作業に取り組んだ。「はしがき」に述べたように、①今後における金融政策運営の参考となり、②学界における金融問題研究に貢献し、③併せて各界の金融政策運営に関する理解を深める、という三つの目的に十分寄与できるような内容とレベルの百年史を編纂すべく、叙述の対象、分析の角度・方法などに工夫をこらし、新分野も開拓したい、などといった雄大な構想・抱負を抱いて研究、執筆に当たった。

作業を開始してから今日までに費やした期間は当初の予定を大幅に上回り、日本銀行の関係部門、出版社、印刷会社、購読者の方々に御迷惑をおかけしたが、それにもかかわらず、全6巻を通じて以上のような抱負のすべてが十分な形で実現できたわけではない。やむをえず割愛した研究分野や、今後いっそうの分析を必要とする項目、さらには事実の解明がなお十分ではない事項など、私たち自身の目からみても不満足な点が少なくない。

これには、現在残された資料上の制約や私たちの能力の限界による面も少なくないが、時間的制約もまた大きく響いたことは否定できない。作業期間が当初の予定を大幅に上回ったとはいえ、「叙述の対象である百年という期間は私たちにとって余りにも長」かったという「はしがき」で述べた私たちの実感は、全6巻の執筆を終えた現在、なおいっそう深いものとなっている。

しかし、上記のように当初の抱負・構想からみて不十分な面が各所に見受けられるにしても、少なくとも私たちは、中央銀行の使命は何か、その使命の達成を支え、あるいは妨げる日本銀行内外の諸条件は何であったかという、もっとも重要な問題を、具体的な歴史的事実の叙述のなかから浮かび上がらせようと全力を傾倒したつもりであり、この点は各巻の記述を通じてお読み取り頂けるものと信じている。

そしてこれに関連し特記しておきたいことは、「客観的立場に徹して執筆を進め、この点につきいやすくも後世の批判を受けることのないように」という、当初に定められた基本方針が全6巻を通じて貫かれたことである。こうした基本方針を堅持しようとする前川編纂委員長の固い御決意のもと、私たち執筆者は、虚心に金融政策運営の推移を振り返り、あくまで客観的な立場で分析、叙述することに努め、いささかなりとも美化することは避け、ところによっては非情とさえみられかねない姿勢で、批判すべき点は率直に批判した。

こうして作成された原稿につき、編纂委員の方々からは有益なコメントを頂き、とくに吉野、呉、西川の3委員からは御多忙のなかで、行き届いた格別に貴重な御意見を数多く頂いたが、これらはいずれも上記の基本方針に即した客観的、学問的立場からの御批判、御助言であった。そして前川編纂委員長に対しては十数回にわたり各時代ごとの政策運営の主要な問題点につき執筆者の見解を詳しく説明し、また昭和55年春から中川理事に代わって担当役員となった三重野理事（現副総裁）は、全6巻にわたり原稿のすべてを丹念に校閲されたが、とくに御異論はなく、最終案どおり決定された。

本書において述べた、個々の政策についての評価や主張については、いろいろな御意見や御批判もあろうかと思われるが、金融政策運営の推移につきその実情を率直に客観的に記述したという点については高く評価して頂けるものと考えている。この百年史が中央銀行による本格的な金融政策史研究への第一歩を印したのものとして、当初の編纂目的にいささかでも貢献できればこのうえない幸せである。

本書の執筆に際しては日本銀行の関係部門の全面的な協力を得ることができ

た。学界からは、各巻刊行の都度諸先生方から有益な御助言、御感想を頂戴し、その後の執筆の参考にさせて頂き、また作成過程の原稿につき土屋喬雄・加藤俊彦両先生からは何度も貴重な御教示、御助言を賜わり、さらに「はしがき」で述べた準備段階における御教示に引き続き第1巻刊行後も個別の事項につき故田中金司先生をはじめ多くの先生方から重ねて貴重な御教示を頂いた。歴代総裁をはじめ多くの日本銀行の先輩の方々からは政策運営の実情につき御回想を承り、貴重な御教示を頂き、また御所蔵の資料を御提供頂いた。

『日本銀行百年史』本文全巻の執筆を終えるに際し、これまで編纂業務につき直接御指導、御教示、御支援、御協力をそれぞれ賜わった編纂委員、学界の諸先生、日本銀行および関係各界の諸先輩の方々、日本銀行本支店の関係部門、ならびに資料を御提供下さった関係者および諸機関に対し改めて心から厚く御礼を申し上げるとともに、本百年史の編纂につきあたたかい御激励・御声援を賜わった各方面の方々に対し深く感謝の意を表する次第である。

編纂作業開始以降これまで御教示を頂き、また資料を御提供頂いたの方々ならびに諸機関（第1巻「はしがき」にすでにその御芳名を記載した諸先生方、諸機関を除く）の御芳名は次のとおりである（敬称略、五十音順）。

青山 俊	新井真次	(故)一万田尚登	井上四郎
色部義明	(故)宇佐美洵	江沢省三	岡田健一
小倉武一	梶浦英夫	加藤智規	坂井雄吉
佐々木直	佐藤俊雄	沢田 悌	関根太郎
(故)竹沢正武	武田英克	都留重人	中川幸次
西川元彦	日本不動産研究所	(故)林大造	速水 優
坂野潤治	深井道雄	藤本巖三	前川春雄
松尾善徳	松本重雄	三森良二郎	三谷太一郎
森永貞一郎	山田精一	V. Janssens	結城亮一
湯川 和	吉野俊彦	吉原重明	渡辺孝友

百年史編纂委員会の構成は「はしがき」に記載したとおりで、その後変化なく、ただこの間日本銀行の組織変更に伴い本行委員の職名に変更があったのみで

ある（総務部長→総務局長、調査局長→調査統計局長、金融研究局長→金融研究所長）。

本百年史の執筆方法については、当初は「はしがき」に記したように、武藤正明、鈴木恒一の両名と私の共同研究に基づき3名がそれぞれ時期を分担して第1次原稿を作成し、その後私の責任において加筆、調整したものを当室作成原稿として各編纂委員に回付し、コメントを求めたうえ、私が最終原稿を固める予定であったが、実際に全体の作業が進むに従い私にとって上記の二段階にわたる調整作業の負担が大きいことが明らかになり、刊行の遅延を防止するためには私の分担時期についてもその大半の第1次原稿の作成を武藤、鈴木両名に肩代わりしてもらわざるをえなくなり、さらに昭和58年春以降約1年間安居和男、中島善太の両名に最終章の第1次原稿の作成に当たってもらった。

各執筆者は資料の渉猟・収集、既存文献の研究、構想の樹立などにつき長期間にわたり日夜きびしい努力を重ねたうえ原稿の作成に当たったが、これらの御労苦に対し執筆責任者として深い感謝の意を表したい。執筆者による第1次原稿作成の分担は次のとおりである。

前 編

第1巻	第1章、第2章	武藤
第2巻	第3章、第4章	武藤
第3巻	第5章の1.～2.	武藤
	第5章の3.～6.、第6章	鈴木

後 編

第4巻	第1章、第2章	鈴木			
第5巻	第3章	武藤			
	第4章	鈴木			
第6巻	第5章	鈴木			
	第6章	<table> <tr> <td>1.～2.(1)</td> <td>中島</td> </tr> <tr> <td>2.(2)～5.</td> <td>安居</td> </tr> </table>	1.～2.(1)	中島	2.(2)～5.
1.～2.(1)	中島				
2.(2)～5.	安居				

本百年史の編纂作業には、上記の執筆者のほか多数の職員が参加し、編纂準備

段階においては資料の収集・整理、研究資料の作成、資料編資料の作成などに当たり、刊行作業開始後は、いわゆる原稿の整理・製作、校正などの作業を行ったが、刊行までに不可欠のこれらの基礎的諸作業を長期間にわたり高度の集中力を保持しながら粘り強く遂行し、本百年史の刊行に大きく寄与したことに対し感謝の意を表したい。執筆者以外の職員の氏名ならびにその従事期間・分担事務は次のとおりである（氏名は着任順）。

氏名	従事期間	分担事務
八木慶和	52. 12～	原稿製作総括、校正、資料収集・整理、研究資料作成、庶務
杉山美奈子	52. 12～	庶務、資料整理、校正
松浦宏	53. 2～60. 4	資料編統計作成、研究資料作成、庶務
斎藤孝子	53. 2～59. 10	庶務、校正
中川浩二	53. 7～55. 12	研究資料作成
広島泰	53. 7～55. 1	資料収集
土谷勝敏	53. 7～55. 1	資料収集
山口静夫	53. 7～55. 1	資料収集
仙波通成	53. 7～53. 11	資料収集
山川光興	53. 11～55. 1	資料収集
竜野忠敏	55. 3～	原稿整理統括、校正、研究資料作成、資料編資料作成、庶務
安井和一	55. 3～58. 5	資料編資料作成、校正、研究資料作成
大野忠男	56. 11～	校正、原稿整理・製作
長谷川信造	58. 4～	校正、原稿整理、資料編資料作成
吉井敬二	58. 8～	校正、資料編資料作成
山本康国	59. 3～59. 5	原稿整理
小林貴久子	59. 10～59. 12	庶務、校正
中村ゆき子	60. 2～61. 1	庶務、校正
高梨博昭	60. 3～	資料編資料作成、庶務統括

本百年史編纂作業としては第7巻（資料編）の刊行が残されている。同巻に掲載する予定の項目のうち、索引以外の項目（統計、年表、法令、参考文献など）についてはすでに原稿作成をほぼ終わり、現在執筆者を中心に索引の作成作業を行っているが、百年史編纂室は本年3月末をもって解散し、校正など刊行までの残された作業は金融研究所に引き継ぐことになっている。

最後に本百年史の出版、印刷に関与された日本信用調査株式会社（出版部）および凸版印刷株式会社（とくに第二本社事業部）の関係者の方々の長期にわたる心からの御協力に対し改めて感謝の意を表する次第である。

昭和61年1月

百年史編纂室長 石川 通達